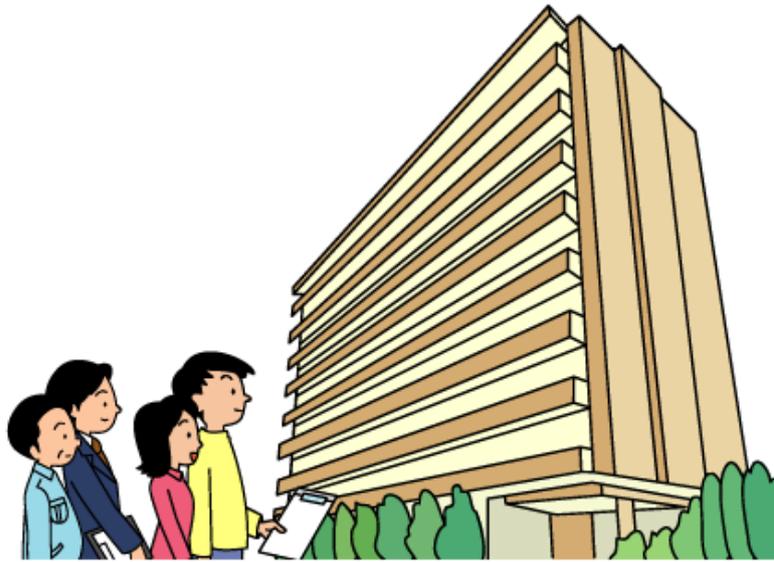


わかりやすく解説

花巻市の財政状況

＜平成25年度決算から＞



花巻市の財政状況を
わかりやすく
解説します。

もくじ

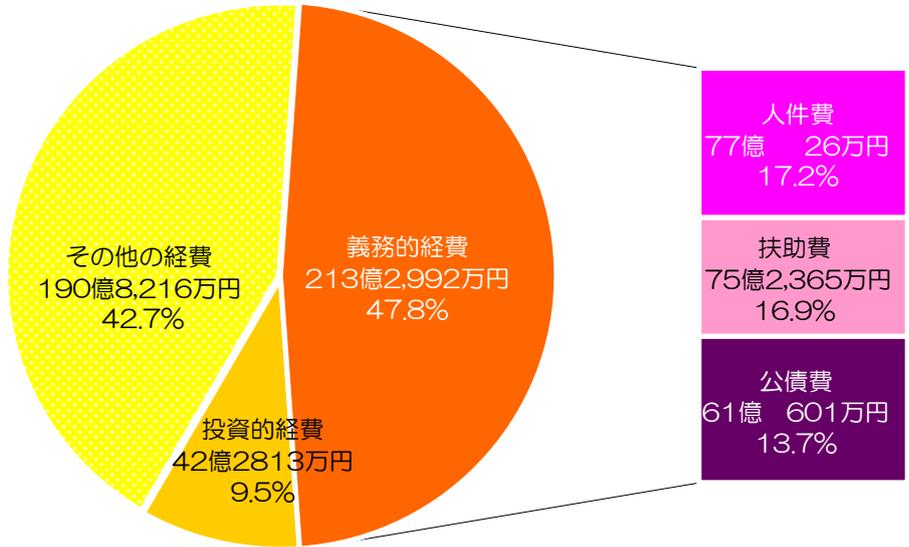
- その1 花巻市の財政状況は？
 - ① 平成25年度の主なお金の使い道は？・・・1
 - ② 花巻市の財政は黒字？貯金はどれくらい？・・・2
 - ③ 自由に使えるお金の割合はどれくらい？・・・3
 - ④ どれくらい自力で財源を確保できているの？・・・4
- その2 花巻市の借金はどうなっているの？
 - ① 借金はどれくらい？・・・5
 - ② 借金返済の負担状況はどうなの？・・・5
 - ③ 将来の世代に借金の負担はかからないの？・・・6
- その3 花巻市の財政状況を財務諸表で見てみよう
 - ① 財務諸表で何がわかるの？・・・7
 - ② どれくらいの資産があるの？・・・7
 - ③ 行政サービスにかかるコストはどれくらい？・・・9
 - ④ 花巻市の財産のうち現金の動きを見てみよう・・・10

花 巻 市

その1 花巻市の財政状況は？

平成25年度一般会計決算から花巻市の財政状況を説明します。

① 平成25年度の主なお金の使い道は？



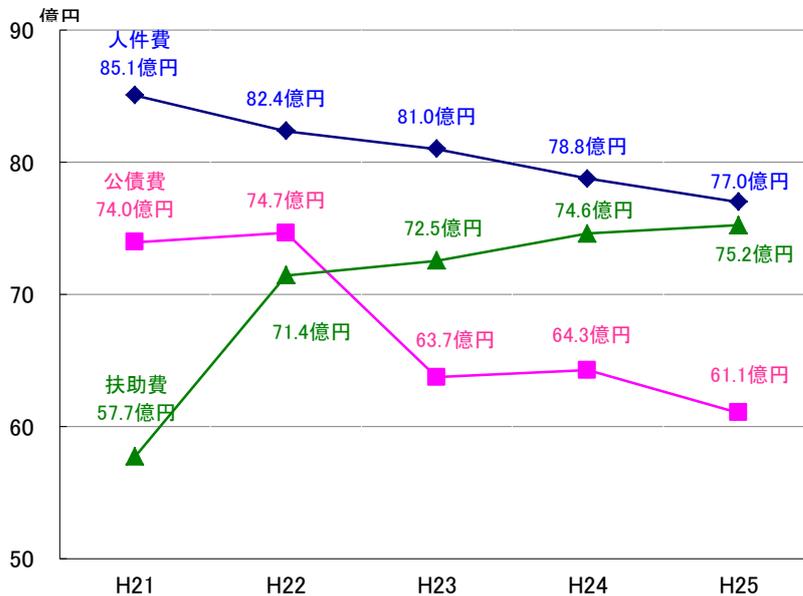
平成25年度一般会計の**歳出総額は446億4.021万円**で、そのうち約半分を義務的経費が占めています。

義務的経費は、人件費（職員の給料等）、扶助費（社会保障制度の一環として、児童・高齢者・障がい者・生活困窮者などへの支援等）、公債費（借金の返済等）で構成され、支出することが制度的に義務づけられている経費です。義務的経費の割合が高くなると自由に使えるお金が少なくなり、公共施設の建設や新しい市民サービスなどの実施が難しくなります。

投資的経費は、道路や学校、スポーツ施設など将来に残るものに対する経費です。

その他の経費は、施設の管理費や各種団体に対する補助金などの経費です。

ここで、歳出の約半分を占める義務的経費の5年間の推移を見てみましょう。



人件費は、定員適正化計画に基づき職員数を縮減しているため、5年で約8億665万円減少しています。

扶助費は、児童手当の支給額の増加等により、5年で約17億4,900万円増加しています。平成25年度は、前年度に比べて生活保護費が減少した一方で、障害者自立支援給付等が増加しています。

公債費は、新たな借入を控えて、残っている借金を低利率で借り換え、繰り上げて返済することで、後年度の負担を減らしてきたため、5年で約12億9,005万円減少しています。

② 花巻市の財政は黒字？貯金はどれくらい？

地方財政の黒字または赤字は、「**実質収支**」という指標によって示されます。

平成25年度決算の「実質収支」は17億8,967万円であり、花巻市の財政は黒字ということになります。

$$\begin{aligned} \text{「実質収支」} &= \text{歳入総額 (467億3,065万円)} - \text{歳出総額 (446億4,021万円)} \\ &\quad - \text{翌年度に繰越すべき財源 (3億77万円)} \end{aligned}$$

次に花巻市の貯金ですが、地方財政では「**財政調整基金**」が貯金に該当します。

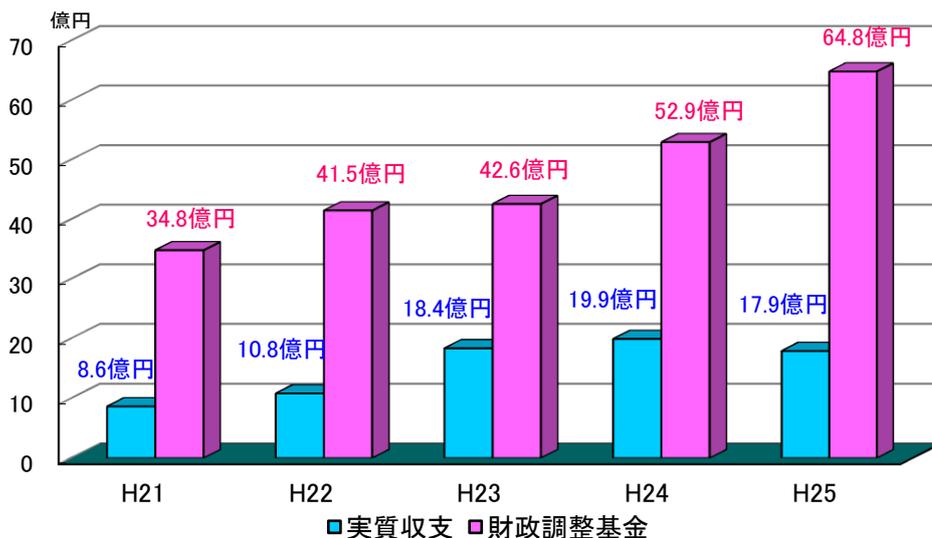
平成25年度末の「**財政調整基金**」の現在高は**64億7,992万円**です。



財政調整基金とは？

決算で余ったお金などを積み立て、市税等の減収による財源不足や災害の際に取り崩すことにより、年度間の財源を調整するための基金です。

ここで、「実質収支」と「財政調整基金」の5年間の推移を見てみましょう。



「実質収支」からわかるように、花巻市の財政は常に黒字を保っています。また、貯金を示す「財政調整基金」については、毎年度増えていることがわかります。

つまり、現在の財政状況は、**貯金を増やしながらか黒字を保っており、安定した状況にある**といえます。

③ 自由に使えるお金の割合はどれくらい？

家計において、収入から支払う食費・ローン（借金）・学費など、固定性の強い支出の占める割合が高くなると、自由に使えるお金が少なくなります。

地方財政では、「**経常収支比率**」という指標によって、自由に使えるお金の割合（**財政構造の弾力性**）が示されます。100%を基準として、基準を上回るほど通常の収入から支出を賄うことができなくなり、財政が逼迫している状況になっていることを意味します。逆に、基準を下回るほどお金の自由度が増し、財政構造の弾力性が高くなっているといえます。

平成25年度決算の「**経常収支比率**」は**82.7%**であり、17.3%分を自由に使うことができるといえ、**ある程度の弾力性が認められる**ことがわかります。

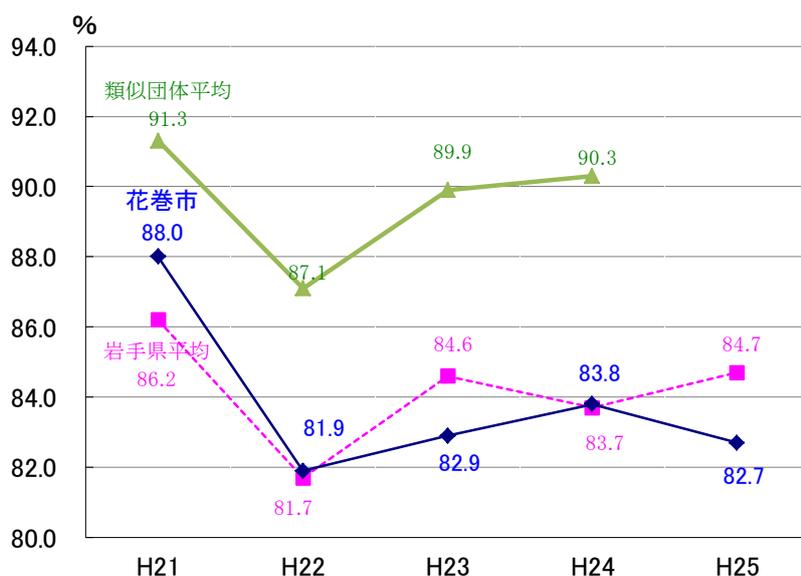


経常収支比率とは？

①で説明した人件費や公債費、扶助費などの義務的性格の強い経常経費に、市税や普通交付税を中心とする経常一般財源がどの程度充当されているかを見ることにより、財政構造の弾力性を判断する指標です。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費充当一般財源総額}}{\text{経常一般財源総額}}$$

ここで、岩手県の平均や類似団体の平均と比較して「経常収支比率」の5年間の推移を見てみましょう。



花巻市の「経常収支比率」は岩手県平均と同程度で推移しており、平成25年度においては、**花巻市は県内市町村のなかでは財政の弾力性が若干高い**といえます。



※岩手県平均・・・H21・H22は県内全市町村の平均、H23～H25は沿岸12市町村以外の21市町村の平均（県HPより）

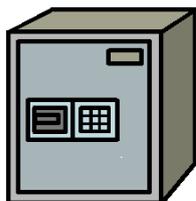
※類似団体平均・・・人口規模や産業構造でグループに分けた市区町村の平均、H25は公表前のため非掲載（総務省HPより）

以下、5年間の推移グラフの岩手県平均と類似団体平均は、同じ内容

④ どれくらい自力で財源を確保できているの？

家計において、支出が収入を上回る場合は、親からの仕送りに頼る場合があります。地方財政では、「**財政力指数**」という指標によって、行政の仕事に必要な費用をどれだけ自力で調達できるか（**財政力の強弱**）が示されます。

平成25年度決算の「**財政力指数**」は**0.43**で、国からの普通交付税により不足分を補っています。



財政力指数とは？

地方公共団体の財政力を示す指数で、「基準財政収入額」を「基準財政需要額」で除して得た数値の過去3年間の平均値をいいます。

「基準財政収入額」…各地方公共団体の財政力を合理的に測定するため、地方公共団体の標準的な税収入の一定割合により算出した額

「基準財政需要額」…各地方公共団体の合理的かつ妥当な水準における行政を行うために必要となる費用を一定の方法で算出した額

財政力指数が高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い団体ということになり、1を超える団体は国からの支援を要しない強さを示し、普通交付税の不交付団体となります。

ここで、岩手県の平均や類似団体の平均と比較して「財政力指数」の5年間の推移を見てみましょう。



花巻市の「財政力指数」は、常に岩手県平均を上回る数値となっており、**花巻市は県内他市町村のなかでは財政力が比較的強い**といえます。



普通交付税とは？

地方公共団体間の財源の不均衡を調整し、どの地域に住む方にも一定の行政サービスを提供できるように、国税の一定割合の額が国から地方公共団体へ地方交付税として配分されます。

地方交付税には、普通交付税と災害等特別の事情に応じて交付する特別交付税があります。

普通交付税は、基準財政需要額が基準財政収入額を超える地方自治体に対して、その差額（財源不足額）を基本として交付されます。



その2 花巻市の借金はどうなっているの？

① 借金はどれくらい？

家計における借金は、地方財政では「**地方債**」が該当します。

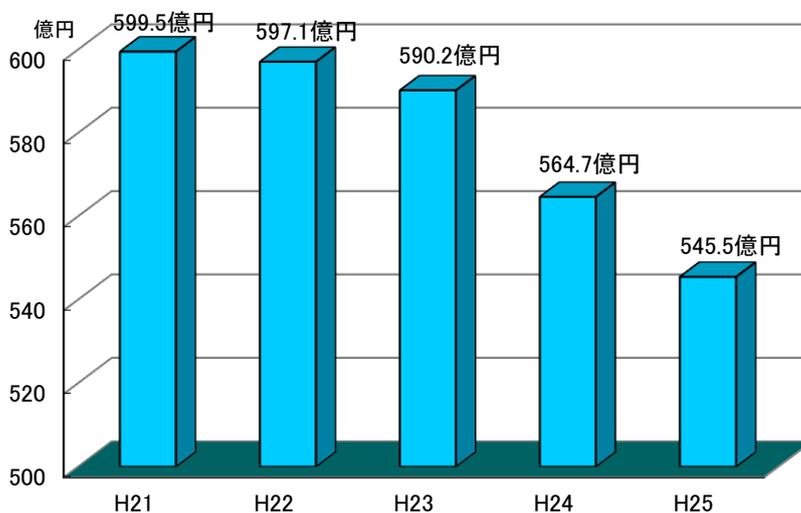
学校や道路などの公共施設の整備には、多額のお金が必要となります。これをその年の収入だけで賄ってしまうと他の仕事ができなくなるため、地方債を活用して**年度間の負担調整**を図っています。

また、公共施設は将来の世代も利用するものであるため、地方債には**世代間の負担を公平にする役割**もあります。

花巻市では、平成25年度に35億750万円を新たに借り入れて、54億2,439万円を返済したことにより、平成25年度末の**地方債残高は545億4831万円**となっています。

※地方債の発行は、原則、公共施設の建設など資産形成を伴うものの費用に充てる場合に限られます。

ここで、「地方債残高」の5年間の推移を見てみましょう。



ここ5年間では、残っている借金の返済額よりも新たな借入額が少なくなるよう努めたため、**地方債残高は減少を続けています**。

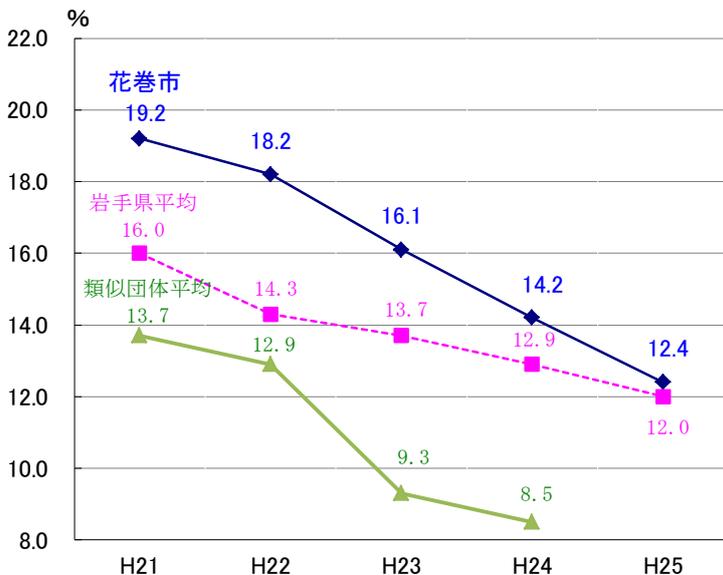
② 借金返済の負担状況はどのなの？

家庭において、家や車のローン、クレジットカードで買い物をした支払いなどの借金返済額が、収入に占める割合として大きくなればなるほど家計は苦しくなります。

地方財政では、「**実質公債費比率**」という指標によって、**標準的な収入に対する借金返済額の割合**が示されます。借金返済の負担が多すぎないかをチェックする指標です。25%を超えると要注意状態、35%を超えると自主的に財政を立て直せない状態にあることとなります。

平成25年度決算の「**実質公債費比率**」は**12.4%**で、基準値を超えることはありませんでした。

ここで、岩手県の平均や類似団体の平均と比較して「実質公債費比率」の5年間の推移を見てみましょう。



花巻市の「実質公債費比率」は毎年減少しています。合併時に旧市町の債務を承継したため岩手県平均を上回る数値となっており、**県内他市町村より借金の負担割合が若干大きい**といえますが、その差は縮小しています。



実質公債費比率とは？

地方公共団体の公債費が財政に及ぼす負担を表す指数です。「標準財政規模」に対する元利償還金及び準元利償還金の割合で、決算に基づく数値の3ヵ年平均によって算出されます。「標準財政規模」…地方公共団体が合理的かつ妥当な水準の行政サービスを提供する上で必要な一般財源の目安となる指標で、標準税収入額等に普通交付税を加算した額

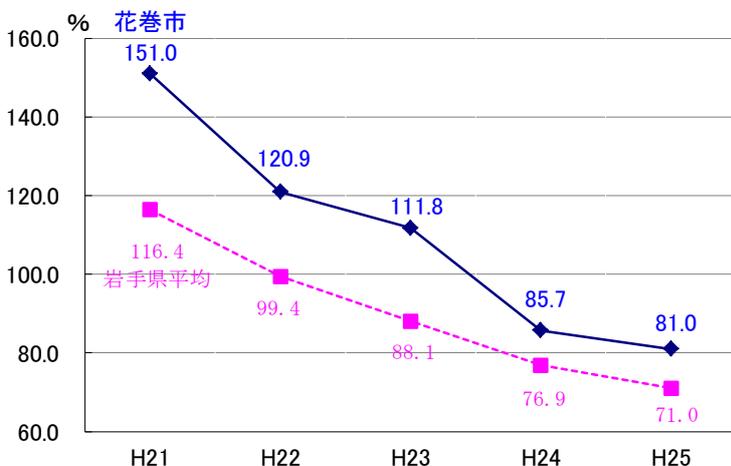
③ 将来の世代に借金の負担はかからないの？

家計において、家や車のローンなど、複数年にわたる借金の総額が大きいほど、将来の負担も大きくなります。

地方財政では「**将来負担比率**」という指標によって、**借金返済額の総額が標準的な収入の何年分にあたるか**ということが示されます。負債にかかる将来的な負担が大きくないかチェックする指標です。350%を超えると要注意状態にあることとなります。

平成25年度決算の「**将来負担比率**」は**81.0%**で、基準値を超えることはありませんでした。

ここで、岩手県の平均と比較して「将来負担比率」の5年間の推移を見てみましょう。



平成25年度の花巻市の将来負担比率は、岩手県平均を若干上回っていますが、着実に減少を続けています。



※類似団体平均は、公表されていないため非掲載

将来負担比率とは？

地方公共団体の実質的な将来負担の程度を示す指数です。一部事務組合や第三セクター等も含め、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の、標準財政規模に対する割合を示しています。

その3 花巻市の財政状況を財務諸表で見よう

① 財務諸表で何がわかるの？

これまでは、平成25年度一般会計決算に基づいて説明してきました。
 地方公共団体の会計は、現金主義によって行われています。現金主義では、お金が入って
 きて収入となり、お金が出て行って支出となります。
 しかし、現金主義では資産や負債などの財産の状況や、行政サービスに要したコストの状
 況を表しにくいので、**発生主義に基づく財務諸表（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産
 変動計算書、資金収支計算書）**を整備しています。発生主義は、お金のやり取りの原因とな
 る事実が発生した日を基準にしたもので、これからの支払いや受け取りの予定が決まってい
 るお金の状況なども明らかになります。
 財務諸表により、これまでの行政活動により蓄積した資産の評価額や減価償却費、退職給
 付費用などを含めた行政コストを把握することができます。
 ※財務諸表は、普通会計決算に基づき総務省方式改定モデルで作成しています。

② どれくらいの資産があるの？

貸借対照表は、年度末時点で市がどのような資産を持っている
 か、また、その資産をどのように手に入れたかを表すものです。
 貸借対照表の左側（借方）には「資産」が、右側（貸方）の上部
 には資産の取得のために借り入れた借金などの「負債」が、右側
 （貸方）の下部には借金以外の資産取得の財源である「純資産」が
 それぞれ表示されます。



平成25年度 花巻市 貸借対照表

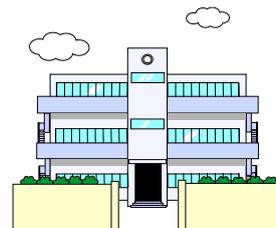
(平成26年3月31日現在)

借 方		貸 方	
[資産の部]		[負債の部]	
1 公共資産 1,910.2億円		1 固定負債 565.5億円	地方債(借金)の うち26年度以降 に返済が生じる
(1) 有形固定資産 1,902.7億円		(1) 地方債 492.9億円	債務負担行為のう ち26年度以降に支 出予定のもの
(2) 売却可能資産 7.5億円		(2) 長期未払金 1.2億円	
2 投資等 120.6億円		(3) 退職手当引当金 71.4億円	全職員が年度末 に退職すると仮 定した場合の支
(1) 投資及び出資金 68.6億円		(4) 損失補償等引当金 —	
(2) 貸付金 5.5億円		2 流動負債 57.3億円	地方債のうち25 年度に返済が生 じるもの
(3) 基金等 42.5億円		(1) 翌年度償還予定地方債 52.6億円	債務負担行為のう ち26年度に支出予 定のもの
(4) その他 4.0億円		(2) 未払金 1.1億円	
3 流動資産 99.3億円		(3) 賞与引当金 3.6億円	26年6月の賞与支 払に備え25年度に 負担したもの
(1) 現金預金 98.0億円		負債合計 622.8億円	
(うち歳計現金) (20.9億円)		[純資産の部]	
(2) 未収金 1.3億円		純資産合計 1,507.3億円	これまでの世代の 負担分(市税や 国・県の補助金な ど)内訳は「純資 産変動計算書」に よって示される
資産合計 2,130.1億円		負債・純資産合計 2,130.1億円	

資産(2,130.1億円) = 負債(622.8億円) + 純資産(1,507.3億円)

貸借対照表からわかるとおり、平成25年度の資産は2,130.1億円で
す。

花巻市の資産は、市税や国・県からの補助金などこれまでの世代の負担によって築かれた「純資産」が大部分を占めていて、資産に対する割合（純資産比率）は70.8%となります。残りの29.2%の「負債」は、地方債（借金）など将来現金が出て行くことを表しているもので、これからの世代が負担することになります。

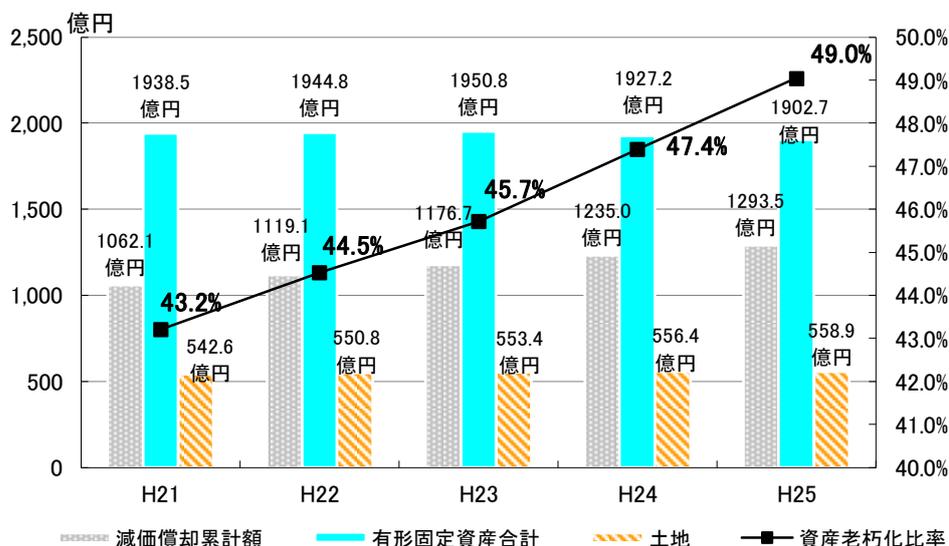


★ 資産老朽化比率

これまで整備された資産を維持していくにあたり、その**資産が耐用年数に対して資産取得からどの程度経過しているかを全体として把握するために、「資産老朽化比率」という指標**を活用します。貸借対照表の有形固定資産のうち、土地を除く資産の合計額に対する減価償却累計額の割合により算出します。

この比率が高いほど各施設の老朽化が進んでいて、近い将来に維持更新のための投資が必要となる可能性が高くなります。

平成25年度の「資産老朽化比率」は49.0%で、下のグラフからもわかるとおり年々比率が上昇しています。



次に、行政分野別の資産老朽化比率も見てみましょう。

項目	資産老朽化比率
① 産業振興（農業構造改善施設、商工観光施設など）	79.1%
② 消防（消防庁舎、消防屯所など）	71.4%
③ 環境衛生（ごみ処理施設、火葬場、墓園など）	64.2%
④ 福祉（保育所、老人保健施設など）	63.9%
⑤ 総務（庁舎など）	54.3%
⑥ 生活インフラ・国土保全（道路、橋、公園、市営住宅など）	42.3%
⑦ 教育（学校、社会教育施設など）	37.4%

特に、産業振興、消防、環境衛生、福祉などの分野の比率が高くなっているため、施設のあり方を含めた施設の維持管理の検討が必要となっています。

③ 行政サービスにかかるコストはどれくらい？

ごみの収集や福祉サービスの提供など資産の形成に結びつかない経常的な行政サービスにどれだけ費用（経常行政コスト）がかかり、それをどのような収入（経常収益）で賄ったかを表すものが行政コスト計算書です。

平成25年度 花巻市 行政コスト計算書

〔 自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日 〕

【経常行政コスト】

		総 額	構成比率		
25年度に退職手当引当金として新たに繰り入れた額など	人にかかるコスト	(1) 人件費	65.4億円	17.5%	貸借対照表に賞与引当金として計上した額
		(2) 退職手当引当金繰入等	3.3億円	0.9%	
		(3) 賞与引当金繰入額	3.6億円	1.0%	
		小 計	72.3億円	19.4%	
旅費、備品購入費、委託料、光熱水費などの経費	物にかかるコスト	(1) 物件費	56.6億円	15.2%	施設などの維持修繕に要する経費
		(2) 維持補修費	10.5億円	2.8%	
		(3) 減価償却費	58.4億円	15.6%	
		小 計	125.5億円	33.6%	
有形固定資産が経年劣化等に伴い、価値が減少したと認められる額の当年度分	移転支出的なコスト	(1) 社会保障給付	75.2億円	20.1%	各種団体等に対する補助金
		(2) 補助金等	32.9億円	8.8%	
		(3) 他会計等への支出額	52.8億円	14.1%	
		(4) 他団体への公共資産整備補助金等	4.4億円	1.2%	
児童手当、生活保護費、高齢者や障がい者への援護措置等	小 計	165.3億円	44.2%	普通会計からの繰出金	
他団体がおこなう施設の建設や改修事業に対する補助金など	その他のコスト	(1) 支払利息	6.8億円	1.8%	地方債の利子支払額
		(2) 回収不能見込計上額	0.4億円	0.1%	
		(3) その他行政コスト	3.2億円	0.9%	
		小 計	10.4億円	2.8%	
25年度の新たな回収不能見込額と不納欠損額	経常行政コスト a	373.5億円			

【経常収益】

使用料・手数料	b	9.7億円
分担金・負担金・寄附金	c	5.0億円
経常収益合計	(b + c) = d	14.7億円
受益者負担率	d / a	3.9%

★受益者負担比率
経常的なコストのうち、サービスの受益者が負担した割合を示します。

★純経常行政コスト
経常的なコストから受益者負担分を除いた額。コストの96.1%は市税や国県の補助金などで賄っていることとなります。

(差引) 純経常行政コスト	a - d	358.8億円
---------------	-------	---------

経常行政コスト(373.5億円) - 経常収益(14.7億円) = 純経常行政コスト(358.8億円)

行政コスト計算書からわかるとおり、平成25年度の経常的な行政コストは358.8億円です。

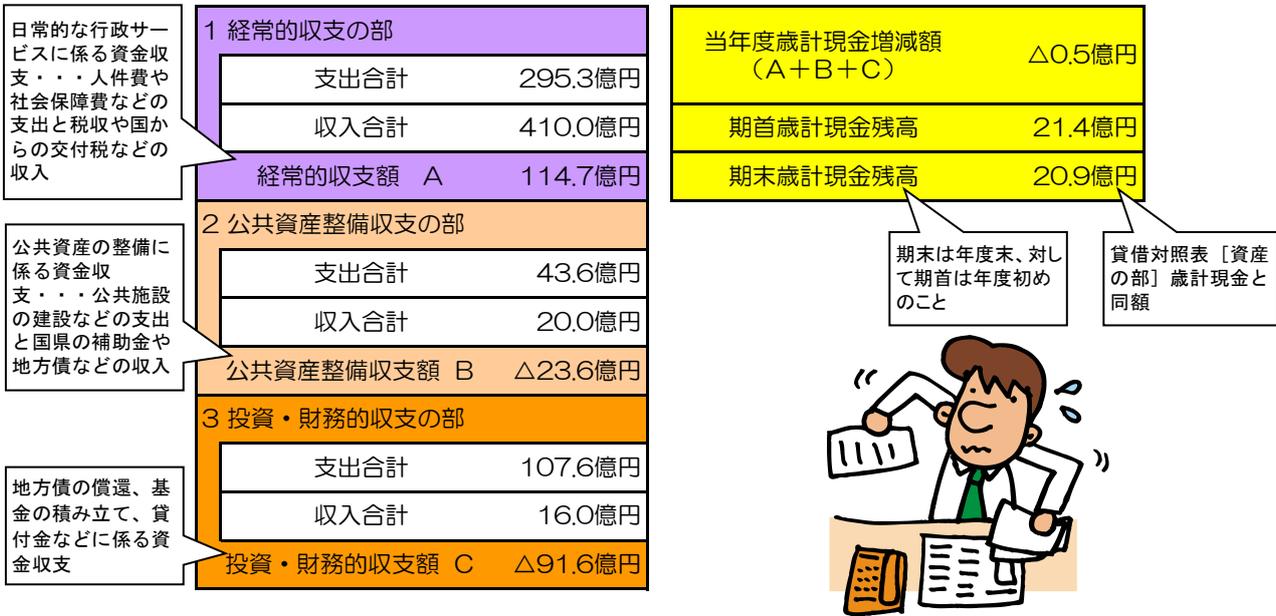
コストを削減するためには、人件費や物件費、他会計等への支出など計画的な縮減を図ることが必要となりますが、例えば、市民の皆さんにもゴミの排出量の削減などに取り組んでいただくことにより、「物にかかるコスト」を削減することが可能となります。

④ 花巻市の財産のうち現金の動きを見てみよう

貸借対照表の左側（借方）、資産の部に計上されている「歳計現金」を、その支出の性質から3つに分けて、現金の変動を表したものが資金収支計算書です。

平成25年度 花巻市 資金収支計算書

〔 自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日 〕



公共資産整備収支Bと投資・財務的収支Cはマイナスとなっており、そのマイナス分を経常的収支Aのプラス分で補っていることがわかります。

★ フライマリーバランス

資金収支計算書から地方債（借金）と基金（貯金）等の歳入歳出を除いたものを「**基礎的財政収支（フライマリーバランス）**」と言い、この指標によって、財政状態のバランスを把握することができます。

花巻市の**フライマリーバランスは40.6億円**で黒字を維持しています。

これは、**地方債（借金）などに頼らずに、平成25年度の支出を賄うことができている**ことを示しています。

また、地方債発行額（新たな借入額）が地方債償還額（返済額）を下回っているため、**借金の残高が着実に減少すること**になります。

収入総額（繰越金を除く）	445.9億円
地方債発行額	$\Delta 35.1$ 億円
財政調整基金等取崩額	$\Delta 0.7$ 億円
基礎的財政収入 A	410.1億円
支出総額	446.4億円
地方債償還額	$\Delta 61.1$ 億円
財政調整基金等積立額	$\Delta 15.8$ 億円
基礎的財政支出 B	369.5億円
基礎的財政収支 A-B (プライマリーバランス)	40.6億円

